

平成 26年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	のびのび福島の子供たち！聖高原サマーキャンプ 2014
事業主体 (連絡先)	麻績村サポーターOMIMO (代表久保田芳永 090-9664-6725)
事業区分	地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1, 198, 543円 (うち支援金：788, 000円)

事業内容

福島県郡山市を中心に、のびのび福島っ子サマーキャンプ実行委員会が公募した15家族(大人19名子供38名計57名)とOMIMO会員及び麻績村内外から21名のサポートスタッフと共に8月2日から4日までの2泊3日のサマーキャンプを行った。期間中、家族が自由に遊べる時間を設けるとともに、松本大学の矢崎准教授による親に向けた心のケアの講座と松本大学の学生が子供の遊びのプログラムを実施、麻績村のサマーナイトフェスティバルに参加、じゃが芋掘り体験、バーベキュー交流会、キャンプファイヤーを行った。



【じゃがいも掘り体験】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 参加者の6割が初めて参加した家族で、新たな交流ができた。全国各地で行われている支援キャンプに参加した方から、麻績のキャンプが一番良かったと感想をいただいた。また、のびのび福島っ子サマーキャンプ実行委員会と郡山市長との面談が実現し今後の新たな交流が期待できる。
- ② 昨年まで共催していた異業種交流の団体、守成クラブ郡山のメンバーが発起人となり、昨年参加した参加者を混じえ新たに「のびのび福島っ子サマーキャンプ実行委員会」を立ち上げた。麻績村サポーターOMIMOと松本大学の矢崎准教授とも連携し一元化した団体を目指す基盤ができた。
- ③ 松本大学の学生が遊びのプログラムを計画し、子供たちのサポートを行った。学生にも福島の現状を知る機会になり、また麻績村のことも知る経験ができた。
- ④ 震災以降、畑の土の匂いを知らない子供が土の感触と匂いが体験できた。
- ⑤ 参加者数が昨年は25家族79名の参加があり、今年は15家族57名の参加であった。参加者の話を聞いても需要がないわけではないので、来年は公募のタイミング等を検討し参加者を増やしたい。(4年間の参加者延べ300名)

【目標・ねらい】

- ① 麻績村の知名度アップ
- ② 継続に向けた組織づくり
- ③ 松本大学との連携
- ④

※自己評価【C】

【理由】
参加者の急なキャンセルや諸事情で日程が短縮されてしまい、麻績の子供たちや村民との交流ができなかった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

本事業の来年以降の継続と交流を進めるため、一元化した組織を立ち上げ資金調達の面からもNPOを視野に活動をしたい。実行委員会で、麻績村の子供たちを福島に招待し交流するプランを検討しており実現に向け連携して活動していく。また、県内で活動している団体と交流し活動の

(別記様式第12号) (第3の8関係)

輪を広げたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある